

(20030401)

博報堂 2003 年度入社式

博報堂は4月1日(火)午前10時、東京都港区芝浦の本社に新卒採用者91名を迎え、東海林隆会長、宮川智雄社長以下、在京の全役員および部門長が出席して、2003年度入社式を行いました。新入社員が一人一人紹介されたあと、宮川社長が歓迎と激励の挨拶を送り、式を終了いたしました。

宮川社長の挨拶の趣旨は以下の通りです。

本日、91名の無限の可能性を持った皆さんを、新しい仕事仲間として迎えることを、会社を代表して、心より歓迎する。

世界は2001年の9月11日を境に、大きく揺れ動いてきた。日本経済も、グローバル市場経済の大きなうねりの中で、大変な苦戦を強いられており、我々の広告ビジネスも大きな影響を受けてきた。しかしながら、こうした厳しい環境であればこそ、我々は優れた企画やアイデアを創り出す「創造力」と、アイデアを現実のものとして行く「実現力」を、高い次元で発揮し、常に活路を見出す努力を続けて行かねばならない。

博報堂は昨年、二つの大きな経営施策を内外に明確にした。その一つは、「パワーブランド・パートナー宣言」、もう一つは、大広、読売広告社と共に持ち株会社を設立し、その傘下にメディア事業会社を共同設立するという、経営統合である。これら二つの施策の根底に流れているのは、挑戦し続ける意欲である。広告主とメディアに対する課題解決力を高めるための挑戦であり、業界首位を追撃していくという挑戦である。

地上波デジタル放送の開始など、メディア環境は大きく変わる。経済のグローバル化はさらに進む一方、政治的、文化的には反グローバル化の潮流が強まるかもしれない。間違い無いのは、我々を取り巻く環境は、その方向性の振れ幅も、変化のスピードも、激しさを増し続けるだろうということである。我々のビジネスは、そういった社会において、生活者の変化をいち早くとらえ、メディアと協働し、広告主のために情報価値を創造し続けることである。

我々博報堂の一人一人が、その担い手としてこれまで以上に一人一人の知恵と行動力を高め、博報堂全体の突破力を高めて行かねばならない。皆さんにその仲間に加わっていただき、その知恵と行動力を大いに発揮してもらうことを期待したい。

「運命は欲するものを導き、欲しないものを引きずっていく」という言葉がある。変化に引きずられること無く、「常に挑戦し続ける気持ち」を持ち、共に博報堂の未来を、力強く切り開いて行こう。

以上

2003年4月1日
株式会社博報堂
広報室